

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	新潟大学
整理番号	B-3
事 業 名	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、学年縦断・分野横断型・多国籍学生チームを単位とするドミトリー型融合教育による地域企業協働のグループワークを主体とする質保証の教育プログラムを通して、メコン地域の課題解決能力と融合型視点を持った理工系グローバル人材の育成を目的としている。</p> <p>ドミトリー型教育では、短期・中期及び長期の多様な交流プログラムを組み合わせ、学部では学年縦断・分野横断のチーム、大学院では研究テーマに関する特定研究分野を設定したチームを編成し、国際テクノロジーと国際マーケットのインターンシップ活動を通して、地域の特性を活かした学生交流プログラムを実施している点が評価できる。また、インターンシップ活動においては、大学院生をサポーターとして配置するなど、学生同士の交流や学びを高める支援体制を敷いており、十分な事前事後学習期間を設けるとともに就職活動への支援も行っている。さらに、インターンシップ受入企業との意見交換を行うなど、企業との連携強化を積極的に進めている点も評価できる。加えて、事業運営についても、学外技術者で構成する国際100人材ネットワークによる教育内容に対する助言や外部評価委員会の評価を受けることで事業改善を図っており、プログラムの質保証が成されている。学生の交流数も目標を達成しており、事業計画に沿って着実に実施されている。</p> <p>一方で、新潟地域の企業特性とカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム（CLMV）諸国が求める課題が適合しているのかという点に関しては懸念があり、新潟地域へどのようにグローバル人材の定着を繋げていくのか、より明確な方策の策定と取組の実施が望まれる。また、CLMV諸国への学生の派遣に偏りが見られることから、今後は事業計画に沿って学生派遣を実施していくことが望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	